

図書館メディアを活用した探究学習の教育実践

——グループ学習に対する自己評価に着目して——

阿 濱 志保里

(受付 2021年10月27日)

1. はじめに

未来が予測困難な時代において、これまで、一方的に学んでいくのではなく、学習者が主体となり、新しい時代を生きていく上で必要となる資質や能力も変わろうとしている。

新しい学習観において、「総合的な学習の時間」(以下、総合学習)の中で、教科横断的・総合的な学習とともに、探究活動にも取組まなくてはならないことが、既に現行の学習指導要領の中に明記されている [1, 2, 3]。さらに、2020年度から順次移行している学習指導要領においては、探究学習をより一層重視する方向で議論が進められた [4, 5, 6]。特に高校においては、選択科目として「理数探究」や「日本史探究」「世界史探究」などの創設が進められ、総合学習を「総合的な探究の時間」に改め、教育改革が進められている [7, 8, 9]。

黒上 [10] は、総合学習における探究活動とは、「生徒自身による問題解決的な学習活動が、発展的に繰り返されていくこと」を指した。探究学習を、『生徒自身が課題の設定を行い、設定した課題に基づいて情報を収集し、整理・分析した上で、課題の解決案を自分の意見としてまとめ、論文やプレゼンテーションなどの形で表現し、表現したものについては、他者との議論の機会や、自身の振り返りの場を設けることで、学習者の主体的な学びの能力の習得を目指している。探究学習を通じ、他者からの意見や質問、自身の振り返りを通して、考えの更新が行われ、さらに深い問題意識が生まれることで、その問題意識を基にまた新たな課題を設定して、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現に取り組んでいく。』と述べ、そのようにして自らの考えや課題を更新し、深めながら、探究のサイクルを継続的に繰り返していく学びが、探究活動の重要な点である。

そこで、本研究では「総合的な探求の学習」として学習デザインの構築に基づき、教材開発を行ったうえで教育実践を試みた。

2. 探究学習のデザイン

本研究における探究学習の流れは、①課題の設定、②情報収集、③整理・分析及び④まとめ・表現の4段階で展開した。

①課題の設定では、情報社会の変化や情報通信機器の進化の過程について説明したのちに、「10年後のスマートフォンはどのような」というテーマを共通に設定した。課題設定の主旨は明確な解を求めるのではなく、背景や社会の変化などの要因を考慮して他者に納得させる解（納得解）を導き出すこととした。

②情報収集では、設定した課題について、必要な情報をインターネットや、図書館に所蔵されている情報メディア等を活用し情報収集を行うこととした。

③整理・分析では、②で収集した情報をグループ内のメンバーに伝えることを目的とし、課題について自分がどのような観点から情報を収集したのかなど、各自が収集したデータについて整理して伝えるように促した。さらに、グループ内での情報収集後、新たに発見された疑問について調査・分析し、改めてグループ内で情報共有することとした。「情報の収集」において、情報の信ぴょう性を確認する作業を含めるためにインターネットだけでなく図書館に所蔵されている情報メディアを活用することとした。

④まとめ・表現では、③において抽出された情報と新たな疑問に対して収集した情報について整理したうえで表現方法の検討と発表を行い、設定した課題についての解決策をまとめることとした。

3. 教育実践

3.1 対 象

教育実践は、2019年度に行った学校図書館司書教諭において行った。受講生は現職教員および教員免許状取得を目指す学習者の合計21名であった。グループ分けは事前に、校種や現職教員、学生を把握し、各グループに現職の教員と学生が入るように混合とした。校種については、さまざまな校種での交流を促すため、同一の校種にはならないように配慮した。

3.2 学習の流れ

学習活動では、探究学習を段階的に進めることを促すために「課題の設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4段階とした。学習の流れを図1に示す。

学習の活動では、課題設定に1時間、情報収集に2～3時間、整理・分析について1時間、

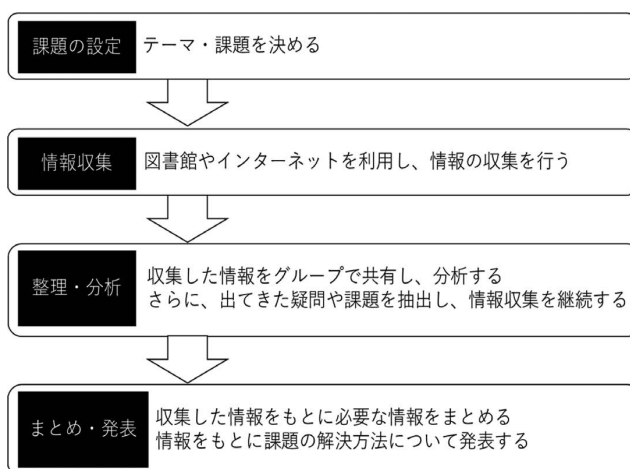


図1 学習の流れ

さらなる情報収集について2時間、まとめ作業に1時間、グループ間での表現（発表）について1時間を設定した。情報収集においては、時間設定は進捗状況を確認しながら行った。また、グループ活動の進捗や方向性を確認するため、活動段階ごとに中間報告を行うなど、活動を支援することとした。

3.3 学習教材の実際

①～④における学習の流れに沿い、学習プリントをはじめとした教材の検討を行った。学習プリントの一例を図2に示す。

探究学習ワークシート

名前				受講番号	
STEP2 テーマを深める（調べ活動）					
◎調べたことを書き出してみよう					
調べる方法					
調べたこと					
情報源					
~~~~~					
調べたことから考えたこと・気づいたこと					

図2 学習プリントの一例

図2では、②情報収集時に活用した。情報収集では、複数のメディアの活用を促すため、インターネットだけでなく、図書館に所蔵されている書籍など複数のメディアを活用し、得られた情報を比較することを促した。

## 4. 学習効果の検証

### 4.1 検証の概要

学習の効果を測る目的に、各学習段階において、どのような活動が効果的であったかを質問項目をもとに、5件法で尋ねた。質問項目の番号1～2については「課題の設定」、質問項目の番号3～4については、「情報収集」、質問項目の番号5～8については「整理・分析」、質問項目の番号9～11については「まとめ」に対応した質問項目とした。選択項目は、5件法（十分にできた・できた・わからない・できなかった・まったくできなかった）とした。調査項目、平均値及びSDを表1に示す。

表1 学習活動の効果

	質問項目	平均値	SD
課題 の 設定	1. 課題を正確にとらえることができましたか	3.86	0.65
	2. 課題の意図を理解できましたか	3.81	0.60
情報 収 集	3. 欲しい情報を得ることができましたか	2.90	1.00
	4. 「調べる」ことを重視できましたか	4.05	0.54
整 理 ・ 分 析	5. 調べた情報を整理できましたか	3.62	0.79
	6. 調べた情報を分析することができましたか	3.00	0.84
	7. 情報を論理的にまとめることができましたか	3.19	0.77
	8. 情報を体系的にまとめることができましたか	2.95	0.67
ま と め  (表 現 ・ 発 表)	9. 言語活動を有効的に活用し、相手に伝えることができましたか	3.88	0.75
	10. 表現し、他人に伝えることができましたか	3.76	0.81
	11. 他人から発表や発信された情報を的確に受け取ることができましたか	4.12	0.53

その結果、「他人から発表や発信された情報を的確に受け取ることができた」において、もっとも平均値が高いことが分かった。

しかしながら、「欲しい情報を得ることができましたか」「情報を体系的にまとめることができましたか」についての平均値が低い傾向であった。自らの活動に対しては、得点が低い傾向がみられた。このことから、他者の活用に対しての評価は高いが、情報収集や体系的に分析することについての自己評価が低い傾向であったことが分かった。

さらに、グループ活動における省察について聞いた。グループ活動において、他人との協働の有無、探究学習を行ったことでの学習者自身の評価を聞いた。選択項目は、5件法（十分にできた・できた・わからない・できなかった・まったくできなかった）とした。調査項目、平均値及びSDを表2に示す。

表2 グループ活動における省察

質問項目	平均値	SD
他者と協働して課題を解決することができましたか	3.73	0.62
得られたテーマについて、もっと学びたいと学習意欲を持ちましたか	3.55	1.12
グループ活動において、新たな知識を得ることができましたか	4.05	0.77
グループ活動において、新たな知見（考え方）を得ることができましたか	4.14	0.80
日常生活や社会に目を向け、課題を捉えることができましたか	3.45	1.01
提示された課題について、新たに調べたいことができましたか	3.95	0.70

その結果、「グループ活動において、新たな知見（考え方）を得ることができましたか」の平均値の得点が最も高く、続いて「グループ活動において、新たな知識を得ることができましたか」の平均値が高いことが明らかになった。また、「日常生活や社会に目を向け、課題を捉えることができましたか」については低い傾向であった。

このことから、グループ活動を通じ、新たな知識や知見を得ることができたが、日常生活につながる課題や問題の発見までに至っていないことが明らかになった。探究学習における課題設定がより学習者にとって身近なテーマである必要が示唆された。

## 5. 実践における課題

本研究における教育実践を通して、課題が2つあることが明らかになった。1つは、情報メディアの活用を促すため図書館を利用したが、図書館に所蔵されている情報メディアから得られる情報の量に限界があり、情報収集が十分にできなかったとともに、限られた資料

の中で体系的な分析も十分に行うことができなかった。このことから、事前に課題解決に必要な情報が収集できるように図書館等の情報メディアを構成する必要性が高いことが示唆された。

また、課題設定を日常生活や社会に目を向けて学習することができるように、学習者にとって身近なものにして意欲付けする必要性があることも明らかになった。そして課題提示や学習の流れについても、学習者の意識に沿ったものにする必要性も明らかになった。

## 6. ま と め

本研究では、新しい学習指導要領において焦点化される「探究学習」について、効果的な課題設定や学習の流れを検討するために、学習デザインを試みるとともに教育実践を行った。その結果、グループ活動における新たな知見の発見には有効な傾向がみられたが、体系的に情報収集を支援するためには事前準備が必要であることが示唆された。また、テーマ設定についても学習者にとって身近なものにするなどの工夫が必要であることが示唆された。

## 参 考 文 献

- [1] 文部科学省, 小学校学習指導要領, 1998.
- [2] 文部科学省, 中学校学習指導要領, 1998.
- [3] 文部科学省, 高等学校学習指導要領, 1998.
- [4] 文部科学省, 小学校学習指導要領, 2017.
- [5] 文部科学省, 中学校学習指導要領, 2017.
- [6] 文部科学省, 高等学校学習指導要領, 2018.
- [7] 文部科学省, 高等学校学習指導要領解説, 2018.
- [8] 中村敏明, 野尻友佳子, 倉見昇一, 高阪, 探将人, 吉川喜代江, 佐野明彦, 探究的な学習における資質・能力の育成と評価の在り方, 先端教育研究センター, 教科研究センター新教育課題研究課研究紀要(123), 2018, 137-153.
- [9] 登本洋子, 伊藤史織, 後藤芳文, 堀田龍也, 探究的な学習が継続的・発展的に繰り返される過程において生じる問題点の検討, 教育情報研究 33 (1), 2017, 15-24.
- [10] 黒上晴夫, 学習指導要領解決的な「探究学習」がこれからの時代を生きる力を育む, ベネッセ, 『VIEW21』高校版, 2016, 4-9.